

第 32 回 圧力設備規格審議委員会議事録

1. 日 時： 2021 年 11 月 25 日(木) 9:30～10:40

2. 場 所： Web 会議 (Teams 使用)

3. 出席者 (敬称略)

委 員： 高木委員長(火原協)、木村(NIMS)、加藤(高圧ガス保安協会)、熊谷(電中研)、佐々木(労働安全衛生総合研究所)、吉川(東大)、石毛(IHI)、佐々木(東芝 ESS)、寺田(神鋼)、木村 (出光・石崎代理)、小山(住友化学)、橋本(東京ガス)、篠原(日本ガス協会)、小森(三井化学)、御手洗(千代田化工)、片岡(日揮)、佐藤(発電技検)、土井(東洋エンジニア)、松田(ベストマテリア)、高梨(IHI 検査計測)、朝田副委員長(三菱重工、記)

事務局： 畑岸、田中(HPI)

4. 配布資料：圧力設備規格委員会－32－

1 第 30 回圧力設備規格審議委員会 議事録 (案)

2 【付議書】規格改正の付議について (F101)

3-1 HPIS F101 2021 改正案

3-2 MDE BOK 他改正対比

3-3-1 R3 認 1-3 2021 MDE BOK 見直し趣旨

3-3-2 R3 認 1-4 2021MDE 認証 BOK 補足 資料

5. 議 事

(1) 前回議事録 (案) の確認他

- ・ 2020 年 3 月 30 日に予定していた第 31 回はコロナ感染拡大の影響で委員会は開催されなかったが、HPI TR Z 109 (信頼性に基づく圧力設備の減肉評価方法)の書面審議を行っており、第 31 回としてカウントし今回は第 32 回とする。
- ・ 事前に電子メールによって配布、確認がされていた第 30 回議事録(案)が承認された。
- ・ 第 30 回で提案のあった HPIS/HPI TR での「じん性」、「ぜい性」、「き裂」の用字用語の統一提案については、「韌性」、「脆性」、「亀裂」で統一することで圧力設備規格委員会として承認された。HPI 規格の中でのタイトルでひらがな表記のものがあるが、今後検討。また、量記号の表示方法についても、各委員会に連絡する。なお、寺田委員から高圧容器規格分科会ではすでに圧力設備規格審議委員会の提案事項に従って用語を統一して規格原案の作成を進めていることが紹介された。

(2) 改正案審議

a. HPIS F 101: 2013 圧力設備の診断に関する技術者の認証基準

委員長より規格改正の付議書が資料 32-2 で紹介された。

阪上認証委員会委員長から、資料 32-3-1 (規格本体)、資料 32-3-2 (改正案)、資料 32-3-3-1 (2021 圧力設備診断技術者 BOK の見直しの趣旨)、資料 32-3-3-2 (圧力設備診断技術者レベル 1 及びレベル 2 の講習会テキストでの BOK の変遷)で改正案の内容の説明があ

った。圧力設備診断技術者認定の BOK が、認証委員会の審議を経て、本年 10 月 25 日 認証委員会で承認され、圧力設備診断技術者の講習会テキストが改定されたので、HPIS F101 (圧力設備等の診断に関する技術者の認証基準)の BOK をテキストに合わせるように改定する。なお、認証のテキストが改正された場合、古い認証を受けた技術者の更新を どうするかについては、一定期間の従事経歴をもとに更新しており、書類審査で協会が必要と認めた場合には更新試験(講習会)を行う。更新の方法は今後検討する。ただし、内容が変更されたことは HPI ホームページで情報を提供する。

以下の通り審議があり、15 日間の書面審議に入ることが承認された。

- ・ 今回の書面投票での改正案の確認のため、テキストを委員に開示することは可能か。
→ 書面審議が 15 日でありその間に委員会委員限定で確認できるように事務局で検討する。
- ・ KHK が HPI の技術者認証を推奨している。HPIS が改正されたことで、KHK に影響するものはあるか。例えば、年版が変わることで手続きに影響する等。
→ 特になし。現状でも読み込まれており、より CB の内容を Update することで技術レベルを上げるものであり、KHK への影響はない。
- ・ KHKS の年版の見直しは各委員会で審議することになる。CB の強化なので問題はないと思うが、確認が必要。
- ・ 大学でシラバスをつくってテキストをつくっているが、それと同じか。
→ それと同じ。BOK と教育シラバスが同等。認証で技術項目が明示され、それに対して教育シラバスが作られる。教育と認証が近いと公正な認証にはならず、組織として分けるのが世界の情勢。
- ・ 解説の 1.2 項が今回の改正内容ということか。BOK が上流になるはずだが。
→ 認証規格の BOK が上流という記載にしている。認証規格の BOK がないと技術者が勉強できない。BOK に対して講習会を受けてもよいし、独学でもよいが、認証試験に合格すればよい。教育をするための項目が BOK に記載されている。
- ・ HPIS の解説が審議の対象になるのか。
→ HPIS においては手順書で特に規定していないので、解説も対象になる。

(3) その他

- ・ 用語の統一等は、今後事務局と相談する。本委員会にも適宜相談したいので協力をお願いする。
- ・ 貢献賞の推薦を事務局から委員に送付するので、候補者があれば委員長及び事務局に連絡する。

— 以 上 —